

# 『スタンフォード ベクトル・行列からはじめる最適化数学』 (第1刷) 正誤表

この度は、標記書籍をお買い求めいただき誠にありがとうございました。  
標記書籍に誤りがありました。訂正し、深くお詫び申し上げます。

頁	誤	正
9	[脚注 9] 0～4096 の整数値の範囲	0～4095 の整数値の範囲
12	[脚注 12] <code>name</code> 属性がつけられる	<code>index</code> 属性がつけられる
23	[1.5 節 4 行目] 数値を近似するには 10 桁の浮動小数点数で十分である	数値は、浮動小数点数として 10 桁程度の精度で近似でき、ほぼすべての実用的な用途ではこれは十分な精度である
32	[9 行目] 任意の $n$ 次元ベクトル $a, b$	任意の $n$ 次元ベクトル $x, y$
58	[脚注 6] 偏差値 ( $Z$ 得点)	偏差値 ( $Z$ 得点, $T$ 得点)
96	[■例の 3 行目] 線形独立	線形従属
123	[脚注 6] 差し替え	別の定義として、 $\text{diag}(A)$ で正方行列 $A$ の対角成分からなるベクトルを定義する、というものもある。ややこしいことに、この二つの定義は同時に定義されることもある (例えば Horn & Johnson, <i>Matrix Analysis: Second Edition</i> , Cambridge Press, 2013 などを参照)。また別の定義として、「正方行列 $A$ の非対角要素をゼロにした対角行列」を $\text{diag}(A)$ とすることもある (例えば Petersen & Pedersen, <i>The Matrix Cookbook</i> , 2012 などを参照)。
291	[脚注 12] 差し替え	本書では用いられていないが、デフォルト値がなく、 $l$ 種類の値をとるカテゴリカル特徴を $l$ 個の特徴に置き換えることも機械学習の応用ではよく行われる (one-hot 符号化や 1-of- $K$ 符号化などと呼ばれる)。